九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

顔アイデンティティの重複した集団への印象形成

米満，文哉

https://hdl.handle.net/2324/4495990

出版情報：Kyushu University, 2021, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏　　名	米満文哉
論　文　名	顔アイデンティティの重複した集団への印象形成
論文調査委員	主　査　　九州大学基幹教育院　准教授　山田 祐樹 副　査　　九州大学大学院人間環境学研究院　教授　橋彌 和秀 副　査　　九州大学大学院人間環境学研究院　講師　山本 健太郎 副　査　　広島大学大学院人間社会科学研究科　准教授　有賀 敦紀

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は，ヒューマノイドロボットの大量生産やクローン人間の産生といった科学技術の発展を鑑みて，同一空間内に複数存在する全く同じ顔を有する人物集団（多重重複顔）がどのような印象を形成するのか，そしてその印象はどのようにして形成されるのかについて実証的研究に基づいて明らかにしたものである。具体的には，多重重複顔と非重複顔および単体顔を呈示する評定実験を行い，その結果多重重複顔がその他よりも強く不気味かつ不快に評価されることを明らかにした。本論文ではこのように多重重複顔によって不気味印象が形成されることを印象形成に関する新たな現象としてクローン減価効果と名づけた。さらにこの現象は，日本人のみならずコーカソイドにおいても確認され，人種を超えて生起する頑健な現象であることが示された。また，本論文はクローン減価効果の生起メカニズムの解明のために，多様な観点から実験的検討を行っている。これにより，多重重複顔の現実的なあり得なさや，多重重複顔を構成する顔間の識別性，アイデンティティの重複，観察シーンの現実性といった刺激特性と，嫌悪感受性といった観察者特性の両者がクローン減価効果に影響していることが明らかにされた。さらに，これらの知見を基に多重重複顔を観察してから不気味さという印象が形成されるまでの認知的処理過程について議論した。その結果，多重重複顔は顔認識プロセスで処理された後に，現実世界の予測処理プロセスに予測エラーを生じさせ，その情報に基づいて行われるアイデンティティの処理によって不気味印象が形成されるモデルを提案した。

以上のように本論文は，科学技術の発展によって生じる可能性が高いにもかかわらず，これまで明らかにされていなかった顔アイデンティティの重複した集団の印象について詳細な実験的検討を行うことで，不気味さというネガティブな印象が形成される新たな現象を発見し，その形成メカニズムについて提案する価値ある研究である。また，新しい科学技術の急速な社会への導入について，心理学的観点から考慮することを実証的研究によって促している本論文の社会的意義は，非常に大きいと言える。よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。